



# 本町だより

横浜市立本町小学校 令和5年 5月31日 発行 第606号

## 6月 やさしい風に背中を押されて

校長 田川 齊史

5月27日の運動会の開催、ご協力ありがとうございました。

ある日の休み時間、ジャングルジムのでっぺんで空を見ている子どもがいました。静かに気持ちを整えているようにも見えました。チャイムが鳴ると一目散に教室に戻って行きました。アジサイの花の咲く季節ですね。そして、いよいよ暑さとの闘いが始まる時期にもなりました。今月も健康で、楽しい学校生活のためのご支援とご協力をお願いします。



## 安全、安心な登下校を 家庭、「まち」に見守られて…

毎朝、たくさんの保護者、ご家庭のみなさん、そして「まち」の方々が、子どもたちの登校の「見守り」に力をお貸し下さっています。我が子を見送りながら、近所の子どもに声をかけながら、お勤めに向かうときにすれ違いながら、大人の目で子どもたちが見守られていることに、この「まち」のあたたかさを感じます。ありがとうございます。これからも、できるときにできる場所で支えてください。子どもたちの安全は大人の目で。学校では、感謝の気持ちも込めて「気持ちのよいあいさつをしよう」と指導しています。ご家庭でも一声を…。お願いします。

## 子どもの支えとなる存在

北原照久さんのお話を聞く機会がありました。北原さんは、ブリキのおもちゃコレクターの第一人者として知られていますし、横浜山手に「ブリキのおもちゃ博物館」を開館し、テレビ番組にも多数出演しています。そのお話の中で、少年期～青年期に出会った人の言葉について話題にしていました。北原さんは中学校で非行に走ってしまい退学処分…。

学校からの帰り道、お母さまが、

「おまえは悪さをしたけどタバコは吸わなかった。」

「おまえは花をよけて、踏まないようにする優しい子なんだから。」

とおっしゃって、その言葉に救われたということです。

また、なんとか進学した高校では、ある先生に、

「君は、(勉強を)やればできるんだな。」

と言葉をかけられ、奮起し、卒業時は成績トップとなったとのこと。人はまわりの一言で生き方を変えてしまうことを身をもって体験したと話されました。

まわりの大人がやるべきことは、子どもを支え、子どもを勇気付ける言葉を与えることであり、周りと比べることや欠点を指摘することではなく、子どもの憧れとなる「存在」でなければならないとおっしゃっていました。

ある歌に、「やれば、できるよ～。できるよ、やれば～。」とあります。やらないであきらめることなく、まずはやってみる。そして、夢を実現させる努力をする。本町の子どもたちが本気になって、たくましい成長をしていくことを願っています。私たち大人(家庭も教師も「まち」も)は子どもたちを支える「存在」として、子どもたちの前に立てるようにしたいものです。

